み，最後に原石がドンという鈍い音をたてて割れたときには，約 50 人の参加者からオーッという歓声が上がった．参加者は石彫の制作過程の第一歩を知るとともに，石彫の制作が危険と隣り合わせで大変だということを体感していた．

ギャラリートークでは，足立が素材岩石の特徴と成因，自然が作り出した“石の目”の見方，石から読み取れる地球の歴史について解説（図 21）をし，続いて絹谷が石彫の制作過程のエピソード，作品に込めた思いについて話した．

図 22．彫刻で遊ぶ子供たち．

来館者の特徴

この特別展では，彫刻に自由に触れたり，叩いたり，乗ったりすることができたので，来館者とくに子供に人気があり，リピーターの数も多かった．作品に乗って遊ぶ子供の写真（図 22）を撮る親子連れも多く，「石と話せたような気がする，石に癒された，東京から見に来たかいがあった，こうした彫刻展ができる名大博物館は素晴らしい，博物館の周辺だけ名大とは雰囲気が違う気がする」といった感想が数多く寄せられた．こうした市民の声は，博物館が目指す“市民に憩いと思索の空間を提供する”キャンパスミュージアム構想とよく合致するものであった．

来館者には，安倍昭恵首相夫人（図 23），渡辺捷昭トヨタ自動車相談役，神田真秋前愛知県知事などの芸術に理解のある VIP の姿も多く見られた．

断層のでき方について足立特任教授に質問する安倍首相夫人

＝名古屋大学博物館＝

安倍昭恵首相夫人が絹谷幸太氏の石彫を見学

10月27日の午後、安倍昭恵首相夫人が名古屋大学博物館を訪れ、開催中の特別展『絹谷幸太・創知彫刻』の石彫を約1時間かけてゆっくりと鑑賞。彫刻の説明は絹谷幸太氏が、石材の解説は元博物館長の足立守氏（名古屋大学PhD.プロフェッショナル登龍門推進室特任教授）が行った。

ブラジル産の赤色花崗岩で制作された大作『マグマの合掌』の前では、絹谷氏が「この赤い石を眺めながら、日本と近隣諸国との関係が１０００年後も平和であることを願って作成しました」という彫刻に込めた熱い思いを語った。足立特任教授は、赤色花崗岩の中の黒い筋は約2億年前に南米大陸がアフリカ大陸から分離した時の地殻変動によってできた〝断層の化石〟と解説。昭恵夫人は花崗岩と断層について質問し、断層によってずれた石の面に手を当てて石の感触を確かめていた。

青色花崗岩の彫刻では、絹谷氏がブラジルでこの石を彫っていた時に、青い蝶の大群が石に集まってきたという体験談を紹介し、さらに「石には宇宙の声が詰まっていて、石に触れるとその声が聞こえることがある」という話になった時、昭恵夫人はすかさず「絹谷さんは宇宙人だから！」と間の手を入れ、展示会場が笑い声に包まれた。足立特任教授からは、青色花崗岩はひじょうに珍しい石であること、石が青いのはソーダライトという鉱物が含まれていること、ソーダライトは青絵の具の顔料になるが、ラピスラズリと違って鮮やかな群青色にはならないという説明があった。これに関連して、レオナルド・ダビンチの名画「最後の晩餐」には、青絵の具としてラピスラズリがキリストなどに多く使われているが、裏切り者のユダだけにはラピスラズリが使われていないというイタリアの修復研究の解説があり、ダビンチが「最後の晩餐」に込めたメッセージは一体何であったのかという話で盛り上がり、創知彫刻の見学は終了した。

図 23．創知彫刻を見学中の首相夫人．「文教ニュース　平成 26 年 11 月 3 日（2315 号）48 頁，無断転載・複写不可」